



さぽせんニューズレター

2006 年冬号 Vol.12 <http://business2.plala.or.jp/support/>

特集

人材不足に悩む市民活動と 期待される団塊世代

後継者がいない、会員が増えない、企業のような永続性がない。市民活動団体がこの「三ない問題」を解決していくためには、「人材確保」は現実の大きなテーマです。今回の特集では、茅ヶ崎で長年活動している団体にその実態取材するとともに、人材確保に向けて団塊世代が持つ経験や能力に着目した先取的な取り組みを紹介します。…………… 2

事業報告

●●●新しい公共サービスの担い手として

市民活動ガイドブックの活用状況。HP更新とスタッフ募集案内。…………… 4

フォーラム開催案内

●●●茅ヶ崎市民活動フォーラム2006

「NPO と企業で新しいまちづくり」

日 時 2006年3月11日(土) 13:00~16:30

場 所 茅ヶ崎市役所分庁舎コミュニティホール

内 容 第一部 事例発表:NPO と企業の新しいパートナーシップづくり

1. イオングループ 茅ヶ崎ジャスコ店 (子どもから大人へのメッセージ:総合学習への協力)
2. TOTO (TOTO の社会貢献・地域共生への取り組み:陶芸教室「ドロノワ倶楽部」の事例)
3. 日本雨水浸透施設工業会と「生き残れ川」の応援団 (やってみよう小さなダムづくり:雨水利用)

第二部 グループセッション:NPO と企業の協働の可能性を探るー地域とのつながりを話し合う

参加費 200円

定員 100名(申し込み制・先着順・参加自由)

茅ヶ崎市民活動フォーラムは、2003年以來毎年実施してきており、市民活動団体同士の協働から行政との協働、そして市民活動推進条例の討議へと、協働を一貫したテーマとしながら、活動の範囲を徐々に広げてきています。そして4回目となる今回、これまでの NPO や市民活動団体に加えて、市内の企業にも公募を募り、市民活動フォーラム実行委員会を組織化して、NPO サポートちがさきとの協働プロジェクトとして活動してきました。昨年より、まちづくりのために社会貢献を実践していくための研究を行い、市内企業へのヒヤリングや意見交換を重ねており、その成果を皆様と共有させていただきたく、今回のフォーラムを企画しました。皆様のご参加をお待ちしています。



国際協力・交流・理解には人材が不可欠 市民が持つ知識と経験に期待！

茅ヶ崎市国際交流協会(International Association of Chigasaki)
理事長 嶋田 豊さん

一 **社会事情や貧困が原因で、十分な教育や医療行為を受けられない外国の子どもたちの支援活動をされているそうですが。**

ソーイングボックスといって、会員が各自ではぎれを集めて、パソコンのカバーなど手作りの品30種類ほどを作るボランティア活動をしていて、その売上金と茅ヶ崎市国際交流協会(以下IAC)が開催するチャリティコンサートなどの収益金を合わせて、海外で支援活動を行う団体に寄付をしています。20年活動を行ってきた中で、色々な活動を広げすぎている面もあるので、今後はこの国際協力の部分、たとえばアジアの貧困な子どもたちへの支援に、もっとウェイトをかけたいと思っています。

でも、あれだけ費やすエネルギーの割に、最終的な寄付金はショックなほど少ないのが現状です。活動予算の中から海外支援にまわせる部分はごく限られており、こうしたボランティア活動無しには成り立たないのですが、協力いただいているたくさんの人達の精神や意識の高さには、いつも頭が下がります。

一 **意識の高い会員が多いということは、新しいことへの取り組み提案も活発なのでしょうね。**

伝統的にIACでは、新しい活動を行う場合、16あるグループのリーダーが集まる月一回の連絡会に提案して、必要であれば予算をつけます。でも、あくまで提案した人が、その活動に必要な人材を集めて実行することが原則です。そのため新しい活動の提案はあっても、なかなか実行しにくいという現状があります。

だからこそ、市民参加型のプログラムをもっとやりたいと

思っています。IACの活動は国際協力だけでなく国際交流と国際理解の三本柱ですが、例えば国際交流の面では、これまでもお花や着付けなど日本文化の紹介や料理講習会、留学生・社会人研修者などのホームステイの受け入れなどを行ってきています。これらは、もっと拡がっても良いと思います。

一 **活動を行っていくうえでの課題は。**

いつもぶつかるのは資金と場所、そしてなによりも人材の問題です。例えば横須賀では、外国籍市民向けの国際交流フェアが行われています。外国籍市民向けといっても日本人市民も参加できます。そのため横須賀市は予算も会場も提供しています。また小田原市では、国際交流協会にサポートセンターほどの場所を提供していて、市の職員が援助していて、部屋を借りたいのだからどうすればよいかなど、外国籍市民の様々な生活相談にのっています。一方茅ヶ崎では、市の外国人相談窓口にはIACが会員を派遣していますが、英語版の広報誌もない現状では、残念ながらこうした窓口が存在することすら知られていません。外国籍市民の立場で考える人材が求められると思います。

将来、NPOサポートちがさきとIACが協働して、外国籍市民のための生活相談などができると良いですね。もちろんそのためには専門知識を持った人や経験を持った人が必要です。今まではボランティアで集まって、ボランティアとしてできることを、精一杯やってきました。でもこれからは、地域に住んでおられる方々が持たれている専門知識や能力・経験を提供していただかないと、一段高いレベルでの国際交流・理解・協力はできないだろうと思います。

2007年、茅ヶ崎でも9,000人が地域に戻る 地域は団塊世代の経験や能力を生かす 魅力的な場へ！

足立区とボランティアセンター武蔵野の取り組みから学ぶ

団塊世代とは、1947～49(昭和22～24)年に生まれた人たちのこと。団塊世代の人口は、平成12年の国勢調査では688万6千人にのぼり、全人口の約5.4%を占めている。この世代が平成19(2007)年から定年を迎え始める。2007年問題などといわれ、これまで団塊世代の大量定年の話題にはあまりいいイメージがなかった。労働力不足や社会保障の現役負担増大といった問題に始まり、地方自治体からは「税収が減少するのに社会福祉費用が増える」、NPOや市民活動団体からは「企業の論理を振りかざす人が増えるだけ」などと言われてきた。

しかし、最近では地域側の認識が変わってきた。団塊世代は若く元気であり、今まで培った経験や能力は大いに活用の余地がある。今までは寝に帰ってくるだけだったが、これからはすばらしい人材が常駐するのだから、その力をまちづくりやまちの活性化に役立てない手はないと認識を変えてきている。

東京都足立区では、昨年11月に区内の団塊世代に向けて「団塊世代は二度輝く！地域があなたを待っている」という講座を開催。地域で求められている様々な活動や起業について紹介する全10回のプログラムを今年2月まで展開中だ。さらに同区では「団塊世代の地域回帰推進事業」に係わる業務委託事業者の募集を、今年1月17日に開始。団塊世代向けの総合的な人生設計や地域生活の充実をめざす講座や、NPOやコミュニティビジネスへの参加や起業のための講座の実施、関連情報の提供などを今春から実施する予定だ。

一方、団塊世代の側も「定年＝引退ということではないはず。それまでの社会で培ってきた知見や知識、技術力、

人脈など様々な力が眠ってしまうのはもったいない。それを社会に還元しよう。さらに、若い世代に継承してもらおう」と考える人が多い。同足立区が団塊世代を対象に行った調査によると、今後の生活で地域活動やNPO活動などを重視したいと答えた人は、そう思うが12.3%、ややそう思うが41.4%、両方で50%を超えている。

しかしそうはいつでも、突然戻ってきて、すんなり地域に溶け込める人は少ない。そこで、そんな人たちへのサポートプログラムが各地で開催されるようになっていく。

ボランティアセンター武蔵野(東京都武蔵野市)では、「お父さん帰らないパーティー(略称おとぼ)」を実施。このパーティーでは、会場にブースを設け、市内で活動する様々なNPOや市民団体に出席してもらおう。参加者は自分に合う活動をしていると思うブースを回りながら、今後の生きがいや活動を探すという仕組みだ。説明会のあとは仲間作りのための懇親パーティーがある。“お父さん”とあるが、女性も参加でき、2000年からスタートして昨年6回目を数えた。団塊世代の定年退職を控え、年に一度では間に合わなくなるためか、2005年からは少人数の「おとぼサロン」も始めた。

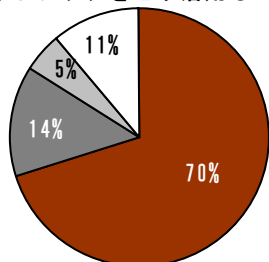
茅ヶ崎でも、平成19(2007)年に9,000人ほどが地域に戻ってくると予測(茅ヶ崎市高齢福祉課)されている。しかもその多くの方は「知人も友人も少ない。世代間ギャップで受け入れてくれないのではないか」という不安も持っているようだ。興味があれば聞きに来るだろうという待ちの姿勢を地域側から改め、現役時代から地域への興味を持ってもらうためのハードルを低くする。そして自分にあった活動を探しておいてもらう。地域を団塊世代が経験や能力を生かせる魅力的な場にする努力が求められている。■

サポートセンター利用者アンケート報告

市民活動団体ガイドブックで他団体との連携や会員増に！ サポートセンターには個室など建物構造に関する要望が増加。

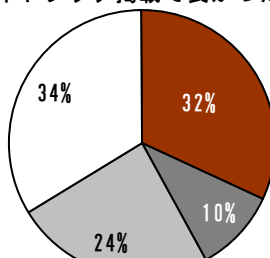
NPO サポートちがさきでは「茅ヶ崎市民活動団体ガイドブック 2005 年度版」の発行にあわせて、市民活動団体の皆様にアンケートをお願いし、81 団体からガイドブックやサポートセンターに関するご意見やご要望をいただきました。「何かあった時に相談にいける場、活動をしている人が集まる場として安心感がある。こうした場が存在していることが大切でありがたい」など、運営スタッフにとって大変嬉しいコメントもお寄せいただきました。

①ガイドブックをどう活用しているか



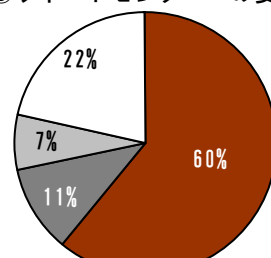
■ 他団体の内容把握 □ 活動協力を要請
□ 活動の共同企画 □ その他

②ガイドブック掲載で良かったこと



■ 他団体との連携強化 □ 会員が増加
□ 活動が活性化 □ その他

③サポートセンターへの要望



■ 個室など建物関係 □ 窓口対応関係
□ 事業内容 □ その他

サポートセンターからのお知らせ

ますます便利に！

「ちがさきサポセン」ホームページをリニューアル

ここに注目

- ① 市民活動団体を写真つきで紹介。分野別、アイウエオ順で検索が簡単にできます。
- ② これまでによくご相談いただいた内容についての回答を「よくある質問」にまとめました。日々の活動の参考としてご利用ください。

参加してみよう

- ① 「コミュニティ広場」意見交換の場としてご利用ください。市民活動に関するご意見もお待ちしています。
- ② 「イベント情報掲示板」活動の紹介をこの掲示板に書き込もう。

これら以外にも、各団体のイベント情報や NPO サポートちがさきの想い、サポートセンターの利用状況、助成金制度のページなど有益な情報が盛りだくさんです。是非一度アクセス(<http://business2.plala.or.jp/support/>)してみてください。

茅ヶ崎市民活動サポートセンター運営スタッフ募集

NPO サポートちがさきでは、多様化する市民活動の支援に情熱を持って仕事をしていただけるスタッフを募集します。

業務内容 窓口業務 募集人数 若干名 待遇 時給 780 円

雇用期間 2006 年 3 月 1 日(予定)～2007 年 3 月 31 日

勤務体制 月曜～日曜 9:30～21:30 交代勤務(1 回 4.5 時間で週 2 回程度。夜間・休日勤務可能な方歓迎)

応募条件 人と接するのが好きな方で、パソコン(ワード、エクセル、メール)が使えること。簿記 2 級程度。

応募方法 履歴書(写真添付)、応募動機(NPO 関係の活動履歴含む)、自己紹介文(A4 一枚以内)を、茅ヶ崎市民活動サポートセンター気付レターケース No.61 NPO サポートちがさき宛に、郵送またはご持参ください。

募集期間 2006 年 2 月 6 日～2 月 25 日

選考方法 書類選考:随時選考を行い、結果を本人に通知します。

面接:面接日は書類選考結果とともに通知します。